一般質問 要旨

環境・景観・誘客
十和田湖をめぐる諸問題で議論！

第三回定例会での市政に対する一般質問は、九月十二日から十四日までの三日間行われ、十四人の議員が登壇した。アスベスト問題、野外芸術文化ゾーン計画、介護保険制度、十和田湖畔の環境問題、市道整備問題など活発な議論が展開された。要旨は次のとおり

一般質問者紹介

岩城康一郎
山本富雄
竹島勝昭
相馬真子
桜田博幸
工藤正廣
赤坂孝悦
紺野忠明
杉山道夫
今泉勝博
赤石花男
畑山親弘
田中重光
鳥越正美

（発言順）

注）発言順と掲載した順序とは一致しません。

総務文教

アスベストについて

質問　公共的施設のなかで人体に害を及ぼす可能性のある建物はどれくらいあるのか伺いたい。

答弁　現在、健康被害を及ぼすおそれのあるとされる吹きつけアスベストの使用状況について、二百三十五ヵ所を対象に調査を進めているところであり、九月末には報告書ができることになっている。

なお、既に使用が確認され、対応が緊急に必要な施設については、アスベストの除去や囲い込み等の工事を実施しており、今後も対応が必要な施設については随時工事を実施していきたい。

天井等にアスベストが含まれているため休館となっている市民図書館

質問　アスベスト対策について今後の対応について伺いたい。

答弁　吹きつけアスベストが使用されている施設の管理、あるいは解体する場合の対応については、国の規則等で定められており、これに従って対応することになる。

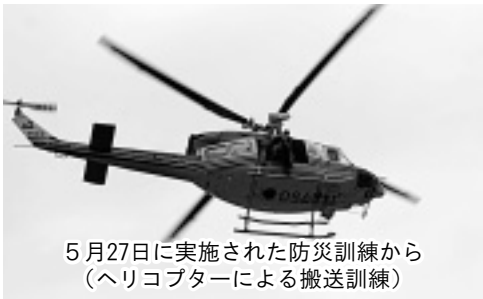
具体的には、管理に当たっては除去、封じ込め、囲い込み等の措置が必要となり、また、解体に当たっては、湿潤化による粉じんの飛散防止、作業場の隔離、排気装置の設置などにより行うことになる。

防災について

質問　五月に実施した総合防災訓練から、どのような教訓や反省点があったか伺いたい。

答弁　これまでの訓練から得た一つの教訓として、職員による被災地各方面からの移動系防災無線の被害状況の報告訓練、それを受け、災害対策本部でのパソコン利用による地図での被災現場の確認、そして被害情報の把握訓練、災害ボランティアセンターの立ち上げ、そのボランティアへの対応訓練、救急隊による被害者への被害程度による対応を見きわめるトリアージ訓練などにより、緊急に治療を要する重症患者の防災ヘリコプターによる搬送訓練、これらを新たに取り入れた。

反省点は、訓練ということであらかじめ時間の設定等があったが、予定通り進行せず、訓練参加機関との連絡において臨機応変に対応できなかったことから、今後、実際の場における連絡網に万全を期し、また、即対応できるような体制の整備に十分配慮していきたい。



5月27日に実施された防災訓練から
（ヘリコプターによる搬送訓練）

質問　消防庁が実施した当市の防災力、危機管理能力の自己評価で、問題点、好評価点はどんなものだったか伺いたい。

答弁　全体を一〇〇とした場合、二二・七七という評価点となっており、高い点では情報連絡体制、低い点では、教育訓練等であった。

今後、この防災力の自己評価を参考とし、より実践的で具体的な防災体制を整備し、防災力の向上に努めていきたい。

熱中症対策について

質問　この夏は非常に蒸し暑く、高校球児や高校ラガーマンが練習中に熱中症で倒れ病院に担ぎ込まれた事故が発生したが、この熱中症対策の指導はどのように行っているのか伺いたい。

答弁　毎年七月、県の教育委員会の通知を受け、各小中学校に児童生徒の安全指導についての文書を配布し、熱中症の予防について通知している。

通知では、運動、部活動等の指導に当たっては児童生徒の健康状態を十分把握すること、体育館や炎天下等で活動する際には、水分の補給を行うほか随時休憩を取り入れることなどについて触れている。

各小中学校では、熱中症の予防に努めるとともに、熱中症の児童が見られた場合の対応についても職員間で共通理解に務め、実践している。